

## 2010年6月県議会質問

長野県議会議員 宮澤敏文

### 1. 県民の最大の関心事のひとつである「がん対策」について

○ 「いつでも、どこでも誰もが適正ながん治療を目指す」長野県がん対策のためのアクションプランが今年から本格的にスタートしました。平成21~24年を区切りとして4年間をかけ整備を図るこのアクションプランの今年度進捗計画と実施状況を先ずうかがいます。

○ 次にがん連携拠点病院の4未設置医療広域での設置へ向けた準備は具体的にどう進んでいるのか伺います。

再 昨年ガン征圧議員連盟役員で厚生労働省担当職員と意見交換をした折、放射線治療医は、新たに連携拠点病院を設置する場合「放射線治療医の常勤設置とする方針は崩さないとのことで、長野県はどう放射線治療医を確保しようとしているのか伺います。

### 2. 食育問題について

○ 21年度文部科学省が秋田県で実施した栄養教諭設置効果の実証報告をどのように分析しているのか

○ またこの結果を考察し長野県の教育現場でどの取り入れようと考えているか。

○ 県が目指す「食育」という意識が県民に定着した社会像をどう描いているのか。

○ 「県民運動は県民全体で沸きあがるものだ」と知事は、食育運動の推進に対し本会議で答弁してきた。また吉村知事からの精神を受け継ぎ、全国で唯一県として、青少年育成の法制化をせずに推進会議を代表とする県民運動にゆだねてきました。

このように社会全体で取り組もうとする課題について、村井知事が期待する県民運動の姿と県行政のかかわり方について所信を伺いたい。

### 3. 自殺対策について

- 長野県の自殺者の現状とその主たる原因どのように分析しているのか
- 国は3,年間で、全国で100億円を用意して抜本対策を推進しようとしている。長野県は一年ごとにどのような達成目標でいるのか。そして三年後はどのような成果をかかげているのか。

### 4. 県組織のあり方

4月末以来、池田町で、長野市の湯谷団地を思い起こさせるような地滑りが発生しました。『災害は大きく構えよ』村井知事の姿勢が徹底され。県砂防課の対応は早く、参事を先頭に現場との連携が見事でありました。まさに司での仕事は万全でありました。しかしその経過で、現地機関での林務部や町との連携、分担が明確だったかといわれると疑問が残りました。

先ほどの自殺対策のように、三年スパンでことを実行する事業や、司、司で積極的な仕事をと職員への方針を打ち出したが、司では解決できない、部局にまたがる問題対応多く、部局横断的な対応が必要になってきている課題が増すと考えるが、今後の長野県の組織体制について知事の考えはどうか。

### 5. あたりまえの県政

5/13 早朝の村井知事を支えてきた政策集団の会議の席上、村井知事はこの4年間をかえりみられ、村井県政は「あたりまえの県政にする努力の日々」であったと熱い言葉で述べられました。

今後の県政にあって混乱の中から導き出した「あたりまえの県政」はどのようにあってほしいと願うのか。村井仁知事に最後に伺います。